

▶写真の洗浄作業をする生徒ら



復興の役に立ちたい

東部中生徒が東日本大震災被災地でボランティア

東部中の2年生4人が8月27日～29日に、東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市へ写真洗浄のボランティアに行きました。

これは県内の5校の小中学校が指定を受け、「実践的防災教育支援事業」の一貫で取り組んだもので、どの生徒も「被災地の役に立ちたいと思っていたのでこのボランティアは良い機会」と意欲的に参加。約300枚の写真の水で洗ったり乾燥機で乾かし、アルバムに整理しました。

生徒らは「壊れた家の中にひまわりが咲いていて復興への力強さを感じた」、「助け合ってみんな頑張っていたので、こちらでもみんなで助け合っていけたら」、「今暮らしている環境や人を大切にしたい」とそれぞれに思いを持ち帰り、同行した村山先生は「2年生はこれから学校の中心になっていく。今回経験し感じたことを学校内に伝えて活かして欲しい」と生徒に期待を込めていました。



▲左からひろかわあゆみ廣川愛弓さん、ももきたまな桃崎珠奈さん、くらみともき鳥越昌樹さん、倉富公貴さん、村山輝美先生

Let's speak English!

イングリッシュサマーフェスタ開催

市内の中学生と市内外のALT（外国語指導者）や留学生らが英語で交流する『イングリッシュサマーフェスタ』を8月30日、南多久公民館で開催しました。

「英語が通じる喜びを体感してほしい」と、多久市中学校英語教育研究会が毎年夏休みに開催しており、市内の中学生45人が参加。ALTのアンドリュー先生をはじめ、佐賀大学の留学生ら7人が中心となって進行し、市内中学校の英語教諭もサポートしています。

ALT・留学生と中学生は、6人一組のグループに分かれ、英語で自己紹介するゲームやオリジナルの旗作り、英語で書かれたレシピをもとにした昼食作りなど、活動しながら楽しく英語を学びました。

東部中3年の松本海斗さんは「英語が得意になりたいです。学校生活最後の夏休みの楽しい思い出にしたい」と留学生との交流を楽しんでいました。



▲留学生と英語でアイデアを出し合いながらオリジナルの旗を作る中学生たち

桐岡ナスを使って、親子料理教室

9/8

今年の親子料理教室は、「多久産探検」をテーマに行っています。2回目は「桐岡ナスを使ったパーティ料理」で、11組の親子42人が参加。まず西多久町のナス畑に行き、桐岡ナスの生育の様子や大きさを見学し、西部小で調理実習を行いました。



「ナスのミートソースかけ」、「ナスのカンタン和えもの」、「フルーツ白玉」、「桐岡ナスのコンポート」を作りました。

参加者は「桐岡ナスの大きさにビックリしました。初めて食べておいしかった」と絶賛しました。

会場一体となって懐かしい童謡を合唱 第26回多久市童謡の集い

9/1

『多久市童謡の集い』（主催：多久市文化連盟）が中央公民館であり、好齢大学院音楽科をはじめ、多久保育園児、たくジュニアコーラス、コーラスいずみなど4団体が参加しました。昔懐かしい童謡や、かわいい衣装を身に付けた園児による童謡、夏休み期間中に練習を重ねた児童たちによる力強い歌声で披露された合唱曲など、会場は美しいメロディに包まれました。たくジュニアコーラスの村山翔平さん(緑が丘小6年)は「本番で練習の成果を発揮できてよかったです」と達成感で満ちた笑顔でした。

